

活動紹介  
エコボランティア  
アダプトプログラム

# 株式会社チェリーコンサルタント 岡山支社

本社：高松市 支社：岡山市・熊本市 営業所：東京ほか5都市  
創立：昭和42年 従業員：70人 事業内容：建設コンサルタント業  
(農業用水利施設等の土木設計業)、地質調査業、測量業、設計業、  
1級建築士事務所

※岡山市エコボランティアは岡山支社担当。取材に応じていただいたのは、岡山支社担当部長 若城様、営業部長 難波様



A: 図の中央右寄り⑬赤い四角が活動範囲

B: 児島湖畔環境保全アダプトの表示板



C: 児島湖の環境保全活動に参加した社員のみなさん

D: 児島湖に流れ込む3本の川から漂着するゴミ



E: セイタカアワダチソウは刈らずに根こそぎ抜く

F: 清掃活動によって集められたゴミの山

## 児島湖の環境保全活動

岡山市南区北七区の七区排水機場周辺250m区域において、岡山支社が高松本社からの応援を得て5月と9月の年2回3時間をかけて行なっています。その内容は、①漂着・投棄ゴミの回収、処分、②水質を浄化する葦(あし)を保護するため、雑草(主にセイタカアワダチソウ)の引き抜き処分、③排水機場周辺の清掃、美化

また、毎月1回、現地巡視活動(区域内に異常はないか、葦などの植生状況確認)を実施しています。毎回、15人程度が参加していますが、朝7時半からの作業に高松からは夜明け前に出発です。年齢幅も広く20~60代の社員が参加、社員間の親睦にもなっています。

## 児島湖の環境保全活動の経緯

経営者の考えと会社の業務内容が相まって、以前から「地域貢献は大切」の考えが社内に根付いていました。当社が七区排水機場の設計を担当した関係で社員も児島湖に愛着を感じ、平成15年から会社独自に児島湖の清掃を行なってきました。その甲斐あって平成19年より県が当社をはじめ17団体に参加を呼びかけ、岡山県児島湖畔環境保全活動が始まりました。

当社の活動は平成22年からは岡山市エコボランティア活動にも登録しています。

## 環境活動について会社の方針

- 農業や農村の地域貢献、環境保全の活動を推進する
- 当社が請け負った仕事のフォローを兼ねて各地で環境活動に参加する
- 休日の実施と希望者自主参加(強制しない)の原則を守る
- ユニフォームをはじめ活動に要する経費は会社が支出し全面的に応援する

## 取組の成果は上がっている

社員の環境意識が向上し、ボランティア活動の理解が進み、参加者数はずっと維持されています。

ゴミ回収量は活動を重ねるごとに減少し、平成13~17年の平均57tに対して平成18~22年の平均は37tとなっています。水質(COD※)については、平成23年度の値は7.8mg/lで、環境基準の5mg/lをまだ上回っていますが、緩やかながら年ごとに改善されています。また、鳥・小動物の生息が見られ、葦の保護も進んでいることから、生態系の保全についても、成果がみられます。

## 今後の課題

漂着ゴミに関しては減っていないのが現状。特に灌木の陰に粗大ゴミがよく捨てられます。児島湖には笹ヶ瀬川、倉敷川、鴨川が流れ込み、その流域は岡山市、倉敷市、玉野市、総社市、早島町、吉備中央町にわたっています。流域周辺の住民のモラル向上が水質改善の大きな要素となっています。

児島湖の汚れの原因は家庭・工場・農地・市街地からの排水です。このうち、各家庭の日常生活から流される生活排水が42%を占め汚れの最大の原因です。

岡山県が策定している児島湖の長期ビジョンは次の点などです。

- 達成目標…平成37年にCOD(75%値)5mg/lの環境基準値達成
- 望ましい将来像…生活を支え・暮らしを守り・気持ちの良い水辺・自然豊かな児島湖

児島湖に関わる流域の住民、農家、ボランティア団体、企業、行政の方々が、児島湖の大切さを理解し、今よりもっともっと良い環境にして、後の世代に引き継いでいくよう力を合わせる事が強く求められていると、取材を終えての感想でした。

(市民環境記者 行枝)

※COD〔chemical oxygen demand〕化学的酸素要求量：水の汚れを表す指標の一つ